

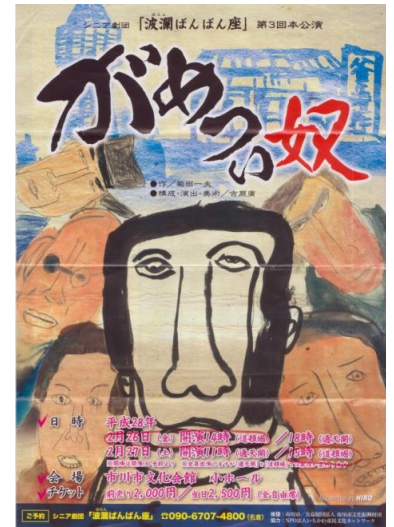
秋田南高校合唱部東京 OB・OG の ゆるやかなイベント第4弾!

2016年2月28日

波多野佳久

●3期 木本純子さんが、2月27日、市川市文化会館で菊田一夫作「がめつい奴（道頓堀）」に出演しました。

昨年末に、木本さんから「実は合唱部定例会を行う2月に、私、舞台に立つんです。」とお話があり、急ぎよ、定例会を観劇会に変更しました。参加者は、波多野・近藤・河田・横井川・須合・桑田の6名でしたが、実際、舞台を見るまでは、その成果がどのようなものか半信半疑でした。しかし、木本さんが密かに思い立ち、シニア劇団[波瀾ばんばん座]で練習を積み重ねてきた結果は、準主役ともいえる 役柄を見事にこなし、素晴らしい!の一言でした。



○菊田一夫の作品

「がめつい奴」は、三益愛子・中山千夏、森繁久弥・加藤大介・草笛光子らが主演し、総天然色という言葉とともに昭和の戦後の落ち着いたその時代を思い起こさせてくれます。そして作曲家の古関裕而とのコンビでは、日本のミュージカルの草分けになった。

「君の名は」、ロングランとなった森光子主演の「放浪記」、「イヨマンテの夜」など懐かしい。

○「がめつい奴（道頓堀）」での木本さんの役柄 あらすじから借用



日本中が貧しかった昭和34年の大阪釜ヶ崎。このあたりの最低の暮らしをしている連中の、その日の寝ぐらとしていた宿屋「釜ヶ崎荘」の宿賃は1日30円。今日も日雇いの肉体労働とともに、衝突自動車の解体、当たり屋、美人局つつもたせなどで稼ぐ住民たち。物語は、この宿屋の女主人のがめついお鹿ばあさんが密かに貯めた三千万円と二千坪の土地を巡って大騒動に発展する愛と欲望渦巻く人情喜劇。木本さんは二千坪の土地の権利書を持って、土地を取り戻そうと紛争する小山田初枝の役。

長い台詞と何ともしがたい展開に見ごたえを感じました。

